



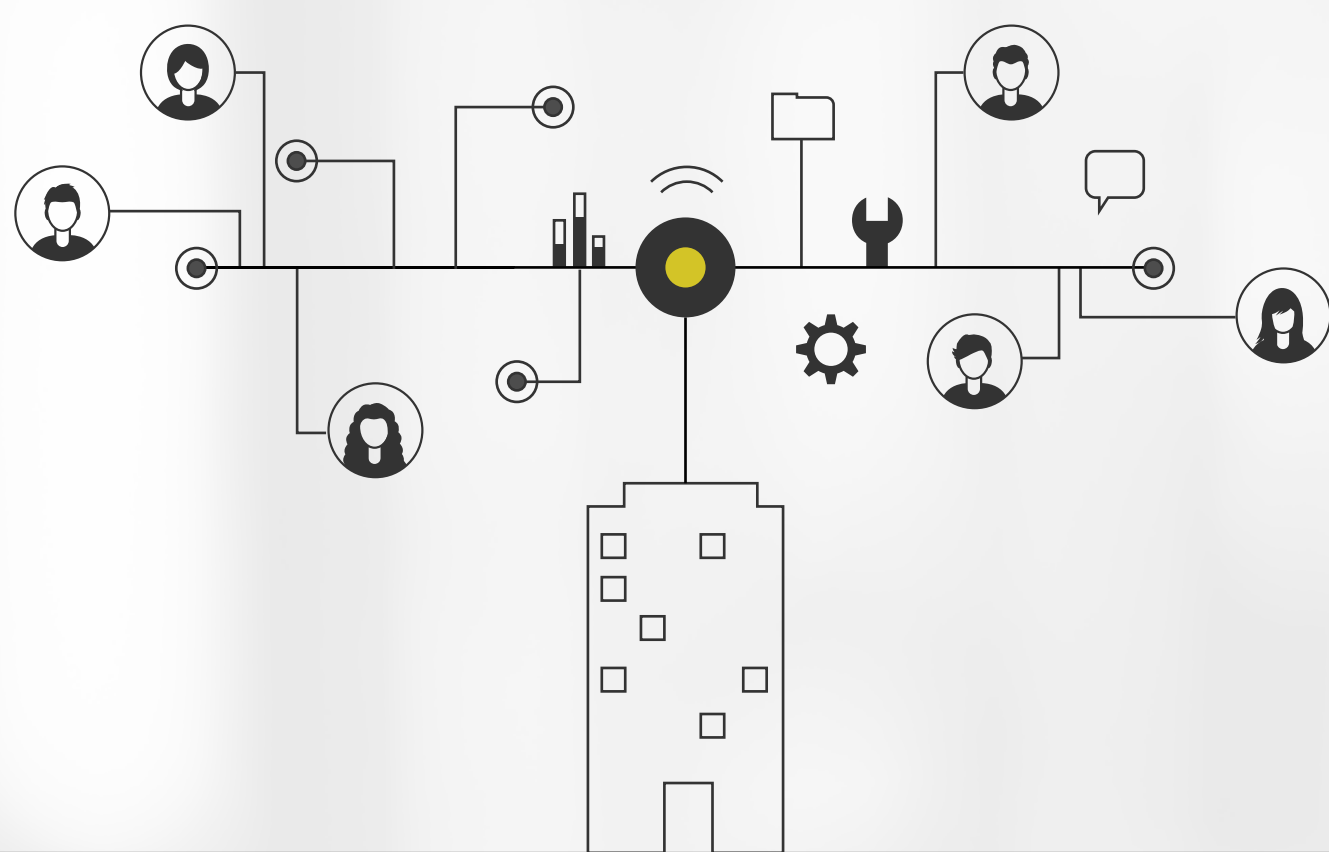
現代の PLM を探る

コラボレーションを戦略的な優先事項に

組織は、複雑さを増す自社の製品ラインの管理と格闘しています。ほぼすべての製造メーカーが、製品ライフサイクルのシステムとプロセスの、連携性のない分断された環境を制御することに苦慮しています。実際、企業の 45 ～ 50 % が製品の複雑さに悩まされており、それは年に発売する製品が 1 つでも数百でも変わりません。

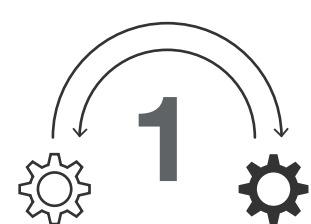
統合ビュー

一流企業は、関係者が部門をまたいで複数のシステムのデータとプロセスにアクセスし、企業全体を網羅した製品データとプロセスについて共通の理解、つまり 1 つの統合ビューを共有できたとき、大幅な改善が実現することを認識しています。



コラボレーション戦略

システム データを一元的に把握することで、シームレスなチーム コラボレーションが実現します。「優良企業」は「その他」に比べて、以下の 3 つの領域全体でコラボレーションを行う割合が 43 % 高くなっています。

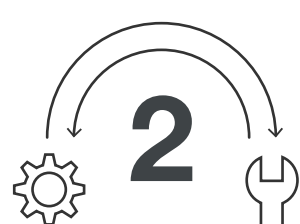


複数の社内
エンジニアリングチーム

79 % | **72 %**

優良企業

その他

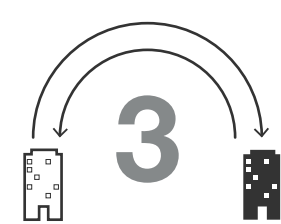


エンジニアリングチーム & エンジニアリング以外のチーム

77 % | **54 %**

優良企業

その他



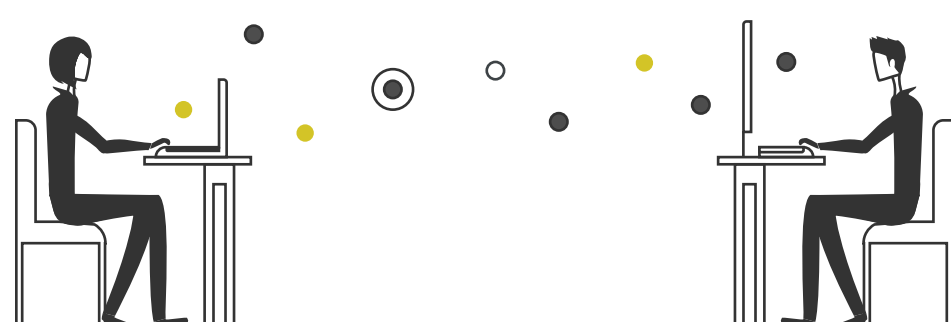
社内チーム & 顧客の組織

62 % | **53 %**

優良企業

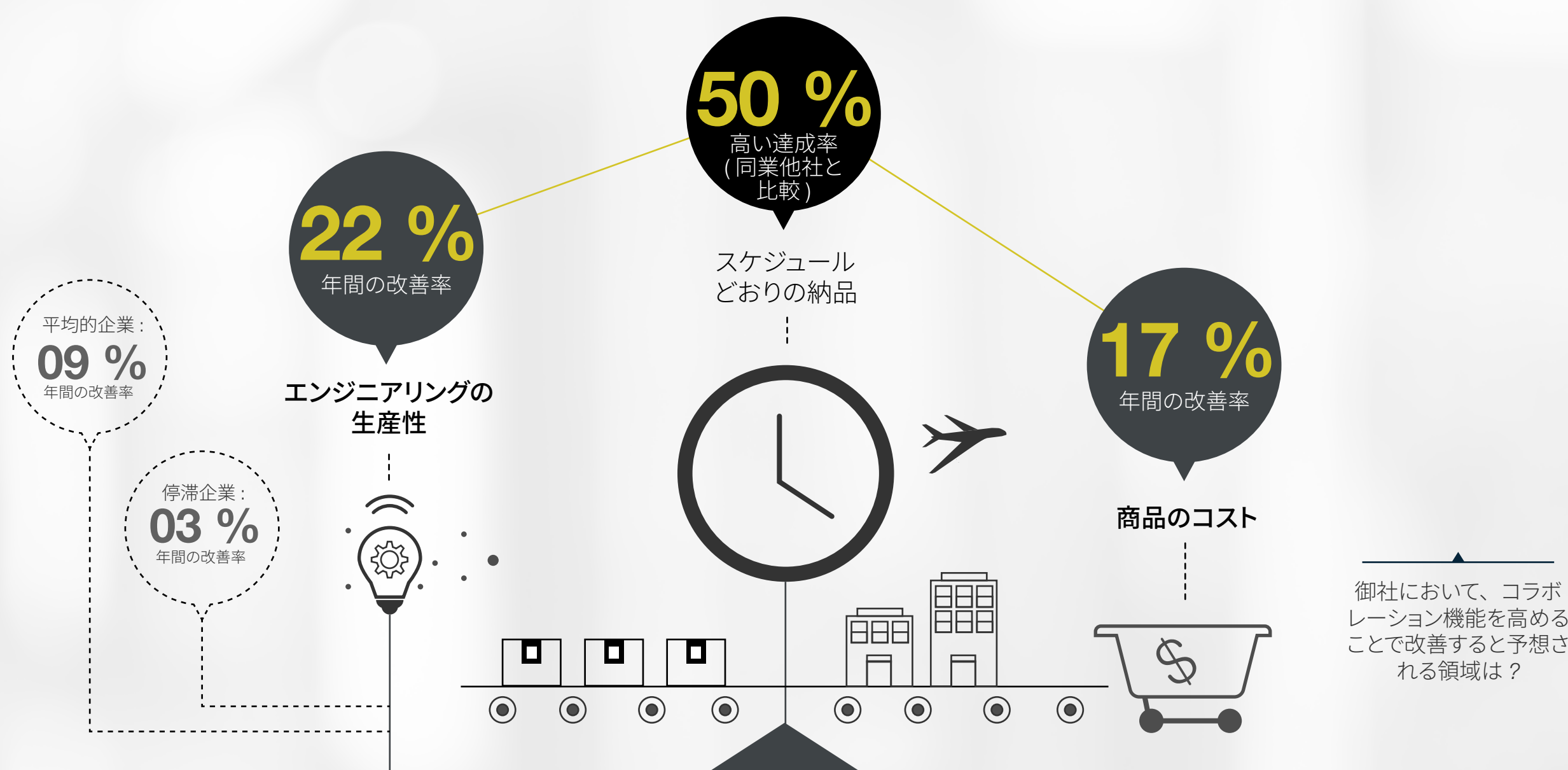
その他

御社でのコラボレーション手法は？



コラボレーションの利点

こうした広範なコラボレーションの取り組みは、優良企業に以下のような利点をもたらします。



優良企業は、口先だけでコラボレーションの概念を受け入れているわけではありません。このコラボレーティブなアプローチを効果的な PLM ツールおよび機能と組み合わせることで、コラボレーションを戦略的な製品ライフサイクルアプローチに組み込んでいます。これによって、製品ライフサイクル全体の関係者が、必要であり理解しているコンテキストで、必要なデータにアクセスできるようになります。その結果、市場投入期間の短縮、品質の改善、エンジニアリングの生産性の向上、販売する商品の大幅なコスト削減といった、大きな成果を達成できます。

詳細はこちら ▶